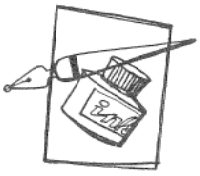

随　筆

感ずるまゝに——日記より

松　尾　幸　人*

理解（昭52. 11. 26）

私の専門に関係のある学会から毎月数冊の学会誌を送ってくる．最近はいろいろと雑用があり，題名または梗概だけを見て内容まで検討する時間的余裕もないが，若い時はそれでも毎月何篇か苦労しながら続んだ記憶がある．その当時より一般に日本の学会誌は理解しにくいということになっていたようである．書かれた研究の内容がむつかしいというのでなく，論文の書き方の拙さにある．外国の学会誌などはスムースにその論文の核心に触れ，それに対する著者の研究の優れた点を従来の研究と対比しながら判り易く書いていて読むのに余り抵抗を感じない．

これに反して日本の学会誌では一般に問題点に対する説明が不十分で，かつどこからどこまでが著者の主張部分かが明確でない論文が多く，論文そのものも大変理解しにくく書かれている．論文は多くの人に自分の研究を理解してもらうために書くのが当然であるのに，その論文からそのような気持を全く感じない論文がかなり多い．判り易く書くと研究に奥がなく浅く見られるとか，自分の論文が活字でのることに自己満足をしているとかの気持があるのではないかと疑いたくもなる．

これとは全く異質のものであるが，理解してもらうという点において前衛的と言われるある種の芸術に疑問を抱くのは私だけだろうか．例えば最近の前衛的な書の良さを一般の人がどれだけ理解出来るだろうか，やはり書は楷書，行書，草書が基礎となって観賞的価値ある作品が出来るのではないだろうか．われわれ，素人から見ると上手，下手が判らないようにカムフラージするために前衛的な書があるのではないかと疑いたくもなる．

私は書道展覧会には時間の許す限り出かけることにしているが，多くの書家の会同展覧会を観に行ったときなど，その良さを理解出来ない書が多いのに驚ろき，満たされぬまま帰った覚えがある．また，東京での書家の展覧会では，その委員長が最近こういう種類の書が多いことは遺憾であると述べているのを週刊誌で読んだことを記憶している．書に限らず他の芸術にしても，その他，芸術に無関係な人間関係，国際関係など何事でも，理解してもらうということが重要である．

国会のドラフト審議（昭53. 2. 20）

倒産，倒産で未曽有の経済危機を迎えているとき，一人の野球のスーパースターの去就をめぐってドラフト制度の是非にまで発展し，ついに2月16日，国会での参院法務委員会でドラフト問題が審議されるにまで至った．

ドラフト制度は札束を積んだ選手争奪戦に歯止めをかけると同時に，各球団の戦力均衡化の目的で昭和40年にスタートした．その後，ドラフト制度の是非については球団関係者，その他でも論じられたが一応，今日まで続いてきたわけである．指名されたプロ野球選手の卵達は希望球団に行けなくとも，72名の指名選手の中に選ばれたという誇を抱いて勇躍入団する人が多いなかで，嫌々ながら入団した人，あるいはまた，どうにも気が進まないで入団を拒否した人もいたようだ．

ドラフト制度を撤廃しようとする人は人権の問題を掲げ，擁護する人は戦力均衡化と契約金高騰防止を掲げているが，私はここでドラフト制度の是非を論じ，また国会で取りあげられるべき問題かどうかを論じようとは思わない．問題なのはE君の指名球団への入団拒否に端を発してドラフト制度が国会にまで持ちこまれた点

* 松尾幸人（Yukito MATSUO），大阪大学，産業科学研究所，教授，工学博士，電子工学

である．確かにE君は東京六大学野球では秀れた素質の選手かも知れない．その彼が指名球団を拒否したからといって，どうして国会まで動かないといけないのか．〝選手が希望球団を選ぶことの出来ないドラフト制度は民法の契約自由の原則に反し，憲法で保障されている職業選択の自由を侵すのではないか〟ということだが，ドラフト制度が実施されて10数年もたっているのである．人権無視の制度ならなぜ，これまでに審議しないのか．過去にE君と同じ理由で指名球団を拒否した人も多くいた筈である．有名選手の人権には立上るが，無名選手の人権はどうでもよいというのだろうか．

規則があるからには守るのが当然である．国会が取上げたという事実は，力があり有名であれば何をやっても正当化されるという誤った考えを若い人に与える恐れがあるのではないだろうか．長いものにはまかれろとか，権力ある者には媚びへつらうという卑屈な態度，考え方と一脈相通ずるように思われ，誠に嫌な思いの今日この頃である．

〔註〕 昭53，12，28の日記に再びこの問題を取上げ，〝力があれば，有名であれば何をしてもよい，規則を破ってもよいというのだろうか〟という私の心配していたことが，当のE君，巨人軍上層部，プロ野球を取締るコミッショナーによって行われ唖然とし，これらの一連の行動について私見を述べているが省略する．この問題を通じて三者三様の〝思い上った態度〟ということについて改めて深く考えさせられた．

矛盾（昭54．3．6）

運転免許証をとって1年以内は車に初心者マークをつけないと罰せられることになっている．免許証をとると同時に車を運転する場合はこれでよいが，数年たって運転する場合はつけなくてよいのだろうか．しかし，この場合は矛盾という程のことではなく，初心者マークをつけるつけないは本人の考えで，数年たっても実際の運転歴が1年以内ならつけておけば，他の車が注意してくれるので安全運転が出来るということになる．寧ろ何年たとうと運転に自信のない者は初心者マークをつけた方がよいのかも知れない．ところで世の中には矛盾と思われることが多い．

奨学金を受ける場合，家庭の収入が選考基準になるが，収入がはっきりしているサラリーマンと必要経費を計上出来る自営業とでは後者が有利であるということは屢々言われていることである．奨学金をガソリン代として遊びまわっている学生がいると聞いているが，一方では奨学金も貰えず，アルバイトを二，三やってどうにか勉強を続けている学生もいるようだが，これでよいのだろうか．

国鉄運賃の値上げは国会の承認が必要だが，急行券，寝台券，グリーン券などの料金の値上げは運輸大臣が認めればよく国会の承認を必要としないようだ。運賃と言えば急行券，寝台券などと切離せないのが常識で，これらを取扱う窓口が異なるのはどう考えてもおかしい．その他，足切りされた受験生に対しても受験料をとるなど，世の中には理屈にあわないことが多い．以上は二，三の例に過ぎないが，当然のことと考えていることでも，掘り下げて考えれば案外，不合理なことを平気で行っている場合がある．神ならぬ人間のすることであるからこのようなことはどの社会，どの団体にも見られるが，大切なのは理屈に合わないとわかれば，あらゆる障害を乗越えて改めようとする気持がその社会，団体の構成員にあるかどうかではないだろうか．

平均寿命は女性が男性より数年長く，夫婦では一般に男性が幾つか年上の場合が多いようだ．ほとんど時を同じくして夫婦が寿命を全うするのが幸福な夫婦のように思うが，これでは女性が未亡人で過ごす年数がますます多くなる．男女間の愛情だけは矛盾などと言ってはおれないのかも知れない．

還暦（昭54．6．10）

今年の5月，新緑の伊豆，天城高原で私達，鳥取二中出身者の同期生会が一泊どまりで開催されたが，私達も還暦を迎え，それを記念し，互いに祝福する意味での同期生会であった．80歳に近い恩師で理科のN先生もわざわざ鳥取よりおいでになり一同感激した．卒業以来始めて会った人もかなりおり，名前も顔も思い出せな

い人もいたが，不思議なもので盃を汲み交わしているうちに中学時代の腕白顔がちらつき，思い出せなかったのが嘘のように思われるものである．第二次世界大戦に巻き込まれて多くの戦死者を出し，入学者百余名のうち生存者は60名弱となっており，出席者はその中の30名近くであった．

われわれ，大正年代に生まれた者は，青春時代を明治生まれの人々がおこした戦争の手先になって働らき，戦場で銃砲火をくぐりぬけ生きながらえて本土に辿りつき，戦後は昭和生まれの人々に突き上げられながら焼土と化した日本の復興の第一戦に立って地道な余り目立たない仕事を強いられて来た．また未曽有の食糧難に悩まされ生きるために全力を使い果たし，人生で最も盛んな活動期の二十代を無為に過したのは心残りであると同時につくづく不幸な時代に生まれたものだと思う．

還暦とは赤ん坊になって新しい人生のスタートにつくということのようだが，せめて青年時代にかえって，戦争などによる束縛を受けず，全力を出して自分のやりたい事を徹底的にやって見たいという願望は私達の年代が最も強いのではなかろうか．

人里離れた静かな山荘で夜の更けるのも忘れ年も忘れて飲みかつ語り，翌日は雲一つない快晴に恵まれ，貸切バスで箱根関所趾，十国峠を経て熱海で再会を約して解散した．バスの中で内科医のＩ君が〝年なので救急箱を持参したが何の役にもならなかったことを嬉しく思う〟と言った時は改めて年を感ずると共に還暦まで生きて来たことを有難く思った次第である．

蟻（昭54．７．３）

桃山台の宿舎から阪急の南千里の駅まで小さなコンクリートの歩道がある．大学への通勤には専らこの歩道を利用しているが，晴天の日，この歩道を歩くのは苦手である．それは歩きながら考えごとに耽ることが出来ず，絶えず歩道に注意して歩かないといけないからである．原因は蟻である．５，６月頃より秋にかけてカラッと晴れた日，このコンクリート歩道では蟻が何の目的かあちこち歩いているのを見かける．別にコンクリート歩道でなくても蟻は歩いているが，コンクリート歩道だと歩きながら直ぐ目につく．

蜂，白蟻，ゴキブリ，毛虫など人に害を与えるとか，不快感を与えるものと違って，このような蟻は別に人に危害を与えず，また不快感を与えるわけでもなく，自分の身体より大きな餌などを悪戦苦闘しながら運んだり，両側からバッタリ出くわして何を話しあっているのか，立ち止まってゴソゴソやっているのを見ると誠にほほ笑ましく，うっかり靴で踏みつけて危害を与えるに偲びず，絶えず蟻をよけて歩くように注意を払っている．しかし急いで歩いている時など，よけきれないで靴を上げたままどこにおろそうかと迷い，転びそうになることもしばしばである．他の人が見たら独りで何，躍っているのだろうと思うかも知れないが本人は真剣である．

しかし，コンクリート歩道を注意しながら歩くのは大変だとは言いながら，考えようによっては毎日，毎日，三面記事を賑わす悲惨な事件，人間不信に陥いるようないろいろな悪らつな事件がおきている人間社会の醜さから離れて，楽しそうな蟻の世界を歩きながら見おろすのも一服の清涼剤となるようである．

学会のあり方（昭55．４．10）

〝百聞は一見にしかず〟とは古い諺であるがこれは科学技術の分野でももちろんあてはまる言葉である．卑近な例であるがテレビ受像機を見た人と見ない人があったとして，受像機に対する認識には可成りの差があることは当然である．種々の電気機器から発す雑音の画像に及ぼす影響，高層建築物よりの反射による多重ゴーストの問題，……などは実際に受像機を見ている人が切実に経験するもので，これらに対する解決策としていろいろな独創が生まれ，専門外の人でもこういう点を改良してほしいというような要求も出易いわけである．受像機を見たことのない人は原理は知っているが，どこに問題点があるのかそれさえもはっきりせず，独創の生まれる確率はきわめて少くない．

国全体の研究費が少くない上に，かつその中でも民間の研究投資が大半を占め，政府は僅かに30％弱に過ぎないわが国の貧弱な研究環境で

は，わが国の研究者は以上の例から察するまでもなく，出発点においてすでに大きなハンディを背負っていることになる．このような研究環境に加えて学会などの状況はどうであろうか．どの学会，研究会などに出席しても問題点を提起するような報告はほとんどなく，大部分が理論と実測がよくあうとか，秀れた特性の試作が得られたとか，とにかく，研究がうまくいったという種類の発表である．

十分なる設備，研究費のないわが国の研究機関，特に大学などでは，身を以て実験的に深遠なる現象に出喰わす機会も少なく，学会，研究会に出席しても知識は得るが問題提起ということがない．設備，研究費の不足を大幅に改善出来る可能性の全くないわが国の現状では，せめて学会などを固定した型にはまったものとしないで，柔軟性に富んだ頭脳を有し独創力に秀れた若い研究者，技術者の思索の場とし，独創をひき出す場としたいものである．

それには学会，研究会などで，専門分野毎に至急に解決したい点，改良したい点，漠然としているがこういう物が出来たらというような点などを十分に検討し，これらの問題点を判り易く少なく共，年に一回位は公表，もしくはこれらの討論会の開かれることを提案したい．若い研究者の若い頭脳はこれによって刺激を受け，秀れた独創のきっかけを与える可能性は十分にあると思われる．

資源，エネルギー源に乏しく，知識集約型立国の宿命を背負ったわが国では十分に検討すべきことではないだろうか．

修士課程の入試（昭56．4．18）

今春の医師国家試験で秘尿器科の問題の一部が，担当試験委員の山口大医学部S教授の卒業試験問題とほとんど同じ内容であったことが問題になっているが，今度は内科担当の国立滋賀医大H教授が試験前夜，自分の教え子が合宿しているホテルを訪ねて問題を漏らしたのではないかという疑惑が出てきている．厚生省では善後策を考えているようだが，これは当然のことで国家試験の権威にかかわる許りでなく，試験の公正を期するためにも絶対に見逃せないことである．

これと同じようなことが各大学の修士課程（大学院前期課程）入学試験でおこりうる可能性があるのに，この方はあまり問題にされないのはどうしてであろうか．

修士の入学試験では各大学とも専門課目が課せられるが，その試験問題提出委員はその大学の学部で教えていた教官が大体において引き受けている．講義を聞けばその教官が最も重要だと思っている個所はその熱の入れ方などで直ぐわかり，また一般にそのあたりから試験が出る可能性も強く，したがって学部での試験問題と似通った問題になる確率はかなり高い．修士を自分の大学の学部卒しか採らないのならこれでもよいが，他大学の学部卒も受験資格があり，事実，他大学の学部卒も多く受験している，たとえば旧帝大では問題である．

われわれの関係する専攻ではこれを以前より問題にし，検討を加えてかなり改善され，ほとんど外部からの受験生が不利ということはなくなったように思う．厳密なことを言えば，学部で講義を担当している教官が問題を提出する限り，慎重にかまえても多少は不利になっているかも知れない．この問題について各大学はどのように考えているのだろうか．改革しようという動きのあることも一向に聞いていない．早急に改革すべき重要な問題と思うが．